

議会報告会での意見・要望等 《学生との意見交換分》 【 分類 2 】

市内高校、有明工業高等専門学校、帝京大学とは、以下のテーマにて意見交換を実施し、項目ごとに意見・要望等を整理しているもの。

～ 意見交換テーマ ～

○あなたが大牟田市長になってかなえたい三つの公約

学校の表記について

高校①：大牟田、大牟田北、誠修

高校②：ありあけ新世、三池、三池工業、明光

○まちづくりに関すること (地域活性化について)

発言内容	学校
若い世代のまちづくり等への参画については、社会づくりを考えることなどが、将来の目標を増やすことにつながり、多様な交流による価値観の醸成も期待されることから、若者が本市のためにできることを考える授業を実施されたい。	高校①
まちづくりについては、大牟田わかもの会議など新しい取組を進めているが、問題を解決しても、それを担う人がいなければ意味がないことから、市内で活躍できる人材を増やすためにも、まちづくりに係る教育を強化されたい。	高校②
教育機会の拡大や学生のスキルアップ支援については、教育機関と地域企業などとの連携により、地場産業への理解が深まるとともに、将来のキャリアデザインを考えるきっかけになり、地域貢献できる人材の育成につながることから、推進されたい。	帝京大学
人材育成については、コロナ禍で関係が希薄になった自治会に対する支援に加え、企業間の開発に資する交流スペースやシステムを整備することで、創造性やアイデアに富むクリエイティブな人材の育成に取り組まれない。	有明高専

発言内容	学校
地域の活性化については、若い世代の考えや知識を取り入れた少子高齢化対策を進めることで、子供を育てたいと思うまちにされたい。	帝京大学
高齢者の住みやすいまちづくりについては、健康寿命の延伸を図る必要があり、高齢者と幼稚園児など世代を超えた交流の機会を設けるなどして、取り組まれない。	帝京大学
高齢者向けのテーマパーク「シルバーランド」については、帝京大学や地域企業の技術、市内の空き家などを活用した長期・中期・短期の滞在型高齢者向け施設を整備し、高齢者の支援体制を構築するとともに、観光センターを設立し、利用者家族等が利用できる観光バスの運行で交流人口を図ることや、高齢者支援のノウハウを持つ市内の中小企業を支援し、関連サービスを充実させるなどして、日本で一番住みたいと思えるまちづくりを進められたい。	有明高専
地域の活性化については、飲食店などでの学割の実施により、学生に優しいまちにすることで、学生による市の魅力発信や経済効果などが期待できる。	帝京大学
まちの活性化については、市内の飲食店が地域に偏在していることから、自転車や徒歩でも行けるところに分布するよう推進されたい。	帝京大学

(公共交通について)

発言内容	学校
高齢者の移動手段については、車がないと不便な地域も多く、免許を返納したことで引きこもるケースも見られることから、安価で往復できるタクシーなど、小回りが利く移動手段を増やされたい。	有明高専
市内のバスの運行については、早い時間帯に終了し、通学の際に、保護者による送迎が必要となるケースもあるため、利便性向上と保護者の負担軽減の観点から、多くの路線が遅い時間帯まで運行されるよう取り組まれない。	高校①

発言内容	学校
新大牟田駅と大牟田駅間の交通利便性の向上については、新幹線利用客に動物園やイオンモールなど、大牟田駅周辺を回遊させることがまちの活性化につながることから、交通インフラの改善を図られたい。	高校②
市内バスについては、外国人の利用が増えている中、外国語による説明がなく、整理券のルールが理解できない利用者も出てきていることから、誰もが交通機関を利用しやすくするためにも、多言語対応を進め、利便性の向上を図られたい。	高校②
通学時間帯の有明高専行きのバスについては、利用者が多く混雑していることから、連結バスの導入や運行バスの増便を図られたい。	高校②
市内の公共交通を生かしたまちづくりについては、新幹線、電車、バスがあるものの、各交通機関のダイヤが合わず乗換えが不便であることから、交通網を整え、観光客や定住者の増加を図られたい。	高校②
市内・市外の交通アクセスについては、バスや、電車の運行本数が少ないため通学などで利用する際に、時間的な制約が生じてしまうことから、運行本数を増やすことで、利便性の向上を図られたい。	帝京大学
地域交通については、有明高専学生会の役員を対象としたアンケートにおいて、多くの学生の行動を制限する要因の一つとして市内交通の不便さをあげていることから、早急に改善を図られたい。	有明高専
電車の運行については、通学時間帯において銀水駅や吉野駅などは学生の乗降が多く混雑していることから、混雑解消と利便性向上のため、鉄道事業者に対して増便を要望されたい。	高校②
駅・公共交通の利便性については、駅の待合室に学習や読書スペースを設けることで向上するよう取り組まれたい。	高校②
新栄町駅のベンチについては、設置数が少ないことから、増設されたい。	高校②

（街路灯について）

発言内容	学校
街路灯については、学校や習い事で帰りが遅くなる学生も多い中、大通りには十分に設置をされているものの、脇道に入ると明かりがなく怖さを感じる状況にあることから、防犯の観点からも増やされたい。	帝京大学
街路灯については、路地が暗く、恐怖心を与えることから、まちのイメージを明るくするため、細い道への設置も進められたい。	帝京大学
防犯灯及び街路灯については、防犯効果や事故の減少が期待されるが、荒尾市と比較して設置数が少なく感じられることから、増設を進められたい。	高校①
街路灯については、部活や習い事の帰りに暗い場所が多いことから増やされたい。	高校①
まちづくりについては、街路灯を増設することで、事故防止、防犯といった犯罪リスクの軽減を図るとともに、環境美化にもつながることから、昭和レトロなどテーマを持った景観づくりに取り組まれたい。	帝京大学

（道路環境について）

発言内容	学校
市内道路の一部については、凹凸によって、高齢者の転倒や自転車のパンクも起こるような状況にあることから、改善するよう整備されたい。	高校②
市内の道路については、中心市街地などは道路幅も広く整備されているが、それ以外の場所は狭く危険であるため、事故防止の観点から整備を進められたい。	高校②

発言内容	学校
交差点等については、自転車や歩行者の交通事故防止の観点から、カーブミラーを増設されたい。	帝京大学
道路整備については、時間帯により長い渋滞が発生する国道があるため、災害時の避難経路の確保やストレス緩和による住みやすさの向上の観点から、渋滞が解消されるよう取り組まれない。	高校①
道路や歩道の整備については、歩道の段差が多く、自転車や車いすでの通行に支障が生じていることに加えて、幹線道路の道幅が急に狭くなることで自動車の運転がしにくい状況にあり、外出意欲の喪失だけでなく、活気のなさにつながっていることから、通行区分の整備や、道路の拡張など対策を講じられたい。	有明高専

（中心市街地について）

発言内容	学校
中心市街地の商店街については、閉店している店舗が多いものの、駅などがあり、人が行き交う地域であるため、空き店舗を活用し、活性化と治安の改善を図られたい。	高校①
若者が集う場所については、中心市街地活性化の観点から、若者が気軽に集い、コミュニケーションを取ることができる場所を、新栄町のシャッター街につくられたい。	高校②
空き店舗を利用した交流スペースの整備については、地域交流や高齢者間の交流、地域コミュニティの活性化に加え、防犯効果や高齢者の健康維持などにも寄与することから、シャッター街を活用しながら取り組まれない。	高校②
まちの活性化については、シャッター街にはよいイメージを持たれていないことから、シャッター街を活用したイベントによって人の交流を増やし、イメージを改善されたい。	高校②

発言内容	学校
駅周辺のにぎわいの創出については、新規創業者支援制度によって出店を促し、魅力ある商店街をつくるとともに、空き店舗の解体による駐車場・駐輪場の整備を進めることで、大型商業施設とは異なる魅力あるまちづくりを進められたい。	帝京大学
空き家や商店街については、ハラハーモニーコーヒーのように、既存のものを活用し、おしゃれな空間をつくり出すことが活性化につながることから、リフォームに対する支援をされたい。	有明高専
銀座通り商店街については、今の若者が魅力を感じる昭和レトロな雰囲気を生かした居酒屋やバーなどの出店を進め、若者が集える場として活性化を図られたい。	帝京大学
商店街を活用した地域の活性化については、商店街に和風レトロの要素を取り入れることで、来客数・出店数・観光客・移住者の増加や空き家の解消といった効果が見込まれることから、時代を旅する商店街をテーマとして取り組まれたい。	有明高専
新栄町の復興については、市外からの来訪者の増加につながることから、にぎわいを取り戻せるよう取り組まれたい。	高校①
新栄町の再開発については、若い世代の来訪者を増やすためにコストコを誘致するとともに、道路環境の整備も行われたい。	高校②

(イベントについて)

発言内容	学校
まちの活性化の取組については、大蛇山などの多様な世代の交流が図られる大型イベントが少ないことから、本市の楽しさをPRし、世代間交流の機会創出や人口の増加につながるような、大型イベントを増やされたい。	高校①
市内のイベントについては、若者が情報発信することで、本市の注目度が増し、来訪者の増加による地域活性化が見込まれることから、大型のフェス等の開催を検討されたい。	高校②
スポーツによる交流イベントについては、多世代の市民が協働して取り組むことが重要であり、子供のコミュニケーション能力の向上や主体的な行動の醸成などの効果も期待されることから、市主催による運動会を開催されたい。	高校①
市内高校による合同イベントについては、青春祭のような各校の特色を出したイベントが増えることで、学校の活性化や交流促進に加え、進学を控えた中学生の進路選択のきっかけにもなることから開催されたい。	高校①
人口減少と過疎対策については、中心市街地及び駅周辺のにぎわいの創出とそのPRによって、本市に足を運ぶ人が増えるよう取り組まれたい。	高校①

(環境整備について)

発言内容	学校
環境問題の取組については、人にも地球にも優しい市を実現し、市民の定住につながるよう、SDG s 未来都市である本市の取組を積極的に情報発信されたい。	高校②
環境への取組については、本市は電動生ゴミ処理機等への補助によりごみの排出削減を進めているが、今後はバイオマス発電所が立地していることを生かし、市のCO ₂ 削減や環境問題への取組をPRすることで、知名度の向上を図られたい。	高校②
まちなかの環境整備については、まちなかにペットボトル等のごみが散乱していることから、ゴミ箱の設置により、ごみ拾いの手間を減らすとともに、美化を進めることで、ごみのポイ捨ての抑制につなげられたい。	高校①
燃えるごみの収集日については、まちなかに害虫が多いように感じられるため、環境美化や害虫対策の観点から、現在よりも増やされたい。	帝京大学
野良猫の対策については、市内の神社等で多く見かけ、交通事故も多く発生していることから、餌やりを禁止するとともに、SNSを活用した譲渡会や里親募集に取り組まれたい。	帝京大学

(交流施設について)

発言内容	学校
学生の交流スペースについては、a u r e a の増設による場所の確保や、市内の廃ビルのリノベーションを行い、学生と大人のコミュニケーションの場を増設されたい。	高校②
学生が一人でも利用できる無料スペースについては、近隣市の学生の利用も期待できることから、増やされたい。	帝京大学

発言内容	学校
学習スペースについては、だれもが気楽に利用できる場所が市内に少ないことから、来訪者の増加や知名度向上といった観点から増やされたい。	帝京大学
学生の交流スペースについては、市内には交流できるスペースが限られているだけでなく、その利用者が少ないことから、学生が勉強や趣味を通じて交友関係を深め、価値観を共有できる人との交流や視野を広げることにつながるような場を設置されたい。	帝京大学

（施設整備について）

発言内容	学校
娯楽施設については、交流の場にもなることから、イベントができるスペースなどの様々な付加価値をつけた複合型の温泉施設をつくられたい。	帝京大学
娯楽施設の整備については、若い世代の遊ぶ場所が市内には少なく、若者が市外に出かけてしまう状況にあるため、ラウンドワンなどの施設を市内に設置し、近隣からの集客による経済効果を創出されたい。	帝京大学
娯楽施設については、若者が気軽に遊びに行ける施設が増えることによって、市内で活発に活動する若者が増えることから、増設されたい。	有明高専
公園の夏場の暑さ対策については、熱中症などの危険性から公園利用者の減少が見込まれるが、子供たちが公園で遊んだり、大人がウォーキングすることは健康維持につながることから、休憩場所にミストシャワー付きの屋根を設置されたい。	高校①
廃校の利活用については、学校再編により廃校となる校舎が増えている中、施設の利活用により、解体費の縮減効果も見込まれることから、ユニークな商業施設や宿泊施設として整備されたい。	高校②
子供の遊び場所については、猛暑により子供たちが遊べないことから、夏場に安心してのびのびと遊べる施設を整備されたい。	高校②

発言内容	学校
まちづくりについては、交通利便性が高い本市に、武雄市図書館のような来訪者が増加する施設をつくることで、経済効果や治安の向上が見込まれることから、魅力的な施設をつくられたい。	帝京大学
スポーツを身近にする施策については、市民に運動習慣が根づくことで、健康意識が広まるだけでなく、スポーツが若者と高齢者のコミュニケーションの機会につながることから、市内に運動施設を増やされたい。	帝京大学

(防災について)

発言内容	学校
安心安全なまちづくりについては、災害への不安や恐怖を軽減し、迅速な対応と減災につなげていくためにも、日頃から自然災害に備えた自助共助の取組を進められたい。	高校①
防災対策については、災害から大牟田の未来を守るため、令和2年7月豪雨被害の教訓を生かすとともに、堤防などのハード整備に加え、避難経路の確保、独居老人への意識啓発や個別の対策等を市民1人1人に向けて具体的に呼びかけるなどして、充実を図られたい。	高校②
水害対策については、令和2年の豪雨災害後も市内では浸水被害が発生していることから、地下への雨水貯水槽の設置などに取り組まれたい。	高校①
コンパクトシティーについては、近年、豪雨災害やその他の災害が多い中で、災害時に連携が取りやすく、孤立の危険性が低下するとともに、生活の利便性が向上することから推進されたい。	高校①

(空家対策について)

発言内容	学校
空き家の利活用については、解体せず子供の居場所や遊び場とすることで、子育て世代の人口増加を図られたい。	高校②
廃ビルや空き家については、放置されていることで雑草が繁茂し、イメージの低下につながっていることから、解体を進められたい。	有明高専

(安全対策について)

発言内容	学校
中山間地の安全対策については、イノシシなどの出没が増えており、危険であることから、山道に危険を知らせる看板やフェンスを設置されたい。	高校②
安心安全については、路上で寝ている人がいるなど治安がよくないことから、駅周辺への宿泊施設の整備や交通事業者への補助による移動手段の確保などの対策をされたい。	帝京大学

○子育てに関すること (子育て支援について)

発言内容	学校
高校生までの医療費助成については、他市では実施することで、保護者の経済的負担の軽減、移住者の増加、子供の健康増進が図られていることから、本市においても実施されたい。	高校①
高校生までの医療費の支援については、子供に係る高額な医療費の経済的負担を軽減することが、他地域からの移住につながるだけでなく、出生率の向上も見込まれることから、より一層取り組まれない。	高校②
子供の医療費については、子供が健康に暮らすためには受診のしやすさが重要であることから、18歳まで外来・入院を問わずに無償化されたい。	高校②
小・中学校の給食費については、小・中学生にしっかりと食事を取ってもらいたいことから無償化されたい。	高校①
子育て環境の改善については、高額な子供の養育費が出生率改善の妨げになっていると思われることから、幼稚園などの入園費を引き下げられたい。	高校②
子供（小中高生）の遊び場については、少子高齢化対策にもつながることから、商業施設も含めて、増えていくよう取り組まれない。	高校①
子供の健康維持については、外遊びによって免疫ができるにも関わらず、公園内でのボールの利用が制限されていたり、遊具がなくなっていることから、自由に運動できる場を増やされたい。	帝京大学
子育て支援については、幼稚園・保育園に助成を行うことで、保育士等の処遇改善や増加につなげるとともに、園の環境改善に取り組まれない。	帝京大学
市内在住者の幼稚園・保育園の利用料等の負担額については、子育て世代を経済的に支援するため、半額にされたい。	帝京大学

発言内容	学校
子供食堂については、子供の居場所を確保することが、子育てをしやすい環境の構築と子育て世代の増加につながるだけでなく、まちの活性化や地域交流にも寄与することから、支援金や高校生ボランティアの活用など、さらなる取組の拡大を図られたい。	高校②
子育て世代の支援については、金銭面や教育面で不安があることから、移住・定住を図るためにも、経済的支援を実施するとともに、相談支援体制を整えられたい。	帝京大学

○教育に関すること (教育について)

発言内容	学校
中学校及び高校の英語教育については、英語に触れる時間を増やすことで、実践的な英語力を身につけられることから、英語のみで先生と生徒が会話や授業を行う時間を設けられたい。	高校②
学校教育については、自然との共生を学ぶことで、新型コロナウイルス感染症等への理解も深められることから、ワンヘルス教育に取り組まれたい。	高校②
学生の社会性の醸成については、多様な価値観を持つ人々と接することが、政治に関心を持つきっかけにつながることから、持続可能な成長を見据えたリーダーの育成につながるような機会を設けられたい。	高校②
夜間中学校や夜間保育施設については、通学・通園距離によって通う意欲が低下することから、設置箇所を増やされたい。	高校①
教育施設の整備については、オンラインで遠方の教授などとのディスカッションが可能となるなど、より効率的な教育が期待されることから、デジタル化を推進されたい。	有明高専
教員の処遇改善については、残業が多いにもかかわらず、4%の調整額が支給されるだけであることから、教員確保の観点からも、時間外手当を支給されたい。	高校②

○産業に関すること (観光について)

発言内容	学校
大牟田市動物園については、若者や高齢者も利用できる施設であるとともに、福岡県内に二つしかない動物園であることを生かし、まちおこしにつなげるなど有効活用されたい。また、観光客が増えることで、財政改善の効果も期待されることから、さらなるPRを行われたい。	高校②
大牟田市動物園については、分かりにくい場所にあることから、分かりやすい場所に移設、もしくは、分かりやすい案内板を設置されたい。	高校②
大牟田市動物園については、動物福祉の啓発と新たな動物の飼育や繁殖を進めることで来客数の増加につなげるとともに、施設が老朽化していることから、敷地の拡張や飼育施設の改修も進められたい。	高校②
世界遺産を生かした観光については、まちに活気を生み、観光客による買い物、飲食、宿泊等で経済も活性化されることから、より一層取り組まれたい。	高校②
観光事業の促進については、三池港や宮原坑に隣接した花畑や、火力発電を利用した銭湯、温水プールを整備するなど、既存施設等の立地を生かした取組を進められたい。	帝京大学
本市の刀鍛冶などの技術については、外国からの観光客に人気が出るのが想定されることから、本市の伝統工芸を守るためにもPRされたい。	高校②

(企業誘致について)

発言内容	学校
企業誘致については、進出企業が増加することでまちが活性化し、働く世代の移住増加などにより税収も増加することで、高校生までの医療費を無料にするなど子育て支援の充実につなげることもできることから、大型商業施設などに若者向け店舗を増やすことも含め、積極的に取り組まれない。	高校②
製造業への就職を考えており、市内には三井化学などもあるが、最近では半導体が人気があるので、市内にも半導体関連企業が進出すればいいと思う。	高校②
企業への税負担の軽減については、新規企業の参入や、雇用の増加、販路拡大による経済効果などが見込まれることから、実施されたい。	帝京大学

**○移住・定住に関すること
(移住・定住について)**

発言内容	学校
本市への移住の推進については、負担となる引っ越し費用や交通費を支援するなどして、より一層取り組まれない。	高校②
20代・30代の若い世代への支援については、収入が少なく将来への不安が大きいことから、移住・定住を促進し、地域活性化を図るためにも、税負担を軽減されたい。	帝京大学
情報発信については、移住・定住や本市への関心が増えるよう、大牟田の魅力や現在の取組に加え、今後の計画などの発信にも取り組まれない。	高校②
若い世代の市外への流出対策については、若者の雇用や起業により、まちの活性化や人口増が期待できることから、雇用機会の創出やキャリア支援に取り組まれない。	帝京大学

○情報発信に関すること (情報発信について)

発言内容	学校
大牟田の魅力発信については、世界遺産などPRできるものが多いことから、市外来訪者にPRできるものを増やしながら、より一層進められたい。	高校①
本市の魅力発信については、世界遺産や食など魅力がたくさんあるにも関わらず、情報発信が不十分であることから、SNSを有効に活用されたい。	高校①
本市のPRについては、世界遺産や三井港倶楽部などの歴史的な建物が多々あるにもかかわらずアピールができていないことから、観光スポットの掘り起こしに加え、本市の歴史についても発信されたい。	高校②
本市のPRについては、炭鉱などはイメージが古いことから、元気なまちとして、新しいものや有名なものをアピールして若者を増やされたい。	帝京大学
SNSの情報発信については、ふるさと納税や若い世代の移住などへの効果も見込まれることから、Y o u T u b e r とのコラボやショート動画を活用し強化されたい。	有明高専
情報発信については、若い世代の情報入手の手段がSNS中心となったことで、把握しづらい情報も出てきていることから、ニュース、天気、イベント情報などを大画面でPRできるデジタルビジョンを設置されたい。	高校①
市役所業務への理解促進については、国と市の管轄の違いなどへの市民理解が不足している状況にあるが、市役所の業務内容を市民に認識してもらうことが、大牟田市を知るきっかけにもつながることから、市民への情報発信に、より一層取り組まれたい。	高校②

○その他

発言内容	学校
有明高専学生会役員を対象としたアンケートでは、市内出身者と市外出身者で大牟田市の交通に対する評価が異なることが分かった。市内出身者は、広域交通の利便性という点でイメージがよく、市外出身者は、道路が狭い、バスが少ないということで低評価であることが分かった。また、商業施設や公共施設については、娯楽施設に関して全体的に評価が低く、魅力・イメージでは、住みにくくはない、可もなく不可もなくという結果が出ている。	有明高専
大牟田市職員を志望しているので、市の職員から話を聞く機会があればいいと思う。	高校②

上記の意見・要望等につきましては、市当局に伝えるとともに、真摯に受け止めて善処するよう依頼しています。

また、これらの意見・要望等につきましては、必要に応じて、議会の常任委員会や特別委員会の場合などで、議員から直接、市当局に考え方等を尋ねたり要望として伝えたりすることになっています。